

がんじゃくさん 岩石山 山のほりマップ

歴史と自然と笑顔にあふれる岩石山

岩石城跡を歩いてみよう!

岩石城 保元(1156)年～元元(1615)年
 岩石城の歴史は、平清盛が大庭景親に命じて築いた城から始まります。以後、幕府・大友・大内・秋月氏など多くの地方豪族たちがこを奪い合いました。天正15(1587)年の豊田秀吉による九州平定では、秀吉軍1万の兵によりわずか1日で落城。その後、頼川宗兼により再興されましたが、「一宮一城令」により廢城となりました。

馬場跡 奥側に伸びた広い平地は「馬場」と言い伝えられる場所。五片が多く集まったことから、ここにも大きな建物があつたと考えられています。秀吉の岩石城攻めでは、牛馬三百頭が城から放たれたという逸話があります。

吉井戸 山頂から最低限50m以内に数箇所の水源が見られます。井戸は今も水を汲むことができます。山頂に近い場所では井戸が枯れないことは良い縁の条件とされています。

本丸跡 天守台より南8mほど下にあるL字型の平地。南に突き出た平地の端に城の入口とされる虎口(こぐち)の跡がみられます。ここでも多くの瓦片が出土されています。

瓦片 山頂付近を歩いているときここに見つかる瓦の破片。小倉藩の城跡の礎石だった頼川宗兼が治めていたころの岩石城に使われていた瓦だと考えられています。

柱穴(ちゅうけつ) 花笠岩に削られた直径20cmほどの穴がいくつも見られます。おそらく外部からの侵入を防ぐ「逆木(さかきもぎ)」などの柱が立てられた場所だったのかもしれない。

鳥の塚 標高400mにある鳥の塚の展望台からは源田の堀がよく見えます。見晴しの場所だったと思われるが、秀吉軍の大軍を見た時の城兵れらの気持ちを想像すると――。

礎石(くさびいわ) 四方の穴の列は、岩を割るための礎石を打つために削られたもの。岩石城跡で見られる礎石は、頼川宗兼から江戸初期の藩政に見られる石切技術「矢穴」ともいいます。

岩石山の植物めぐり

巨大な岩をめぐり、自然の恵みを感じよう。

春は山頂から眺望できる風景。岩には梵字が刻まれ、山伏たちの修行の場だったことがわかります。

大絶壁 大絶壁が突き出たような岩。裏に秘めたパラスで遊んでいます。

人ひとりがやっと通れる岩の門。奥ルートのお楽しみスポットです。

歩き疲れたらここで休もう。お弁当を広げるとはらうといふ場所です。

岩石山の植物図鑑

春一番はタムシバの白い花が可憐に咲き、5月はコバノミツバツツジやヤマツツジ。秋はタマミズキの実が山を紅く染めます。岩石山は一年を通じてさまざまな植物の営みを観察することができます。県内では希少種となつてしまったウダカズラやヤマツツジなど、絶滅が危惧される植物もいくつも見られるなど、岩石山には昔ながらの自然がたくさん残っているのです。

- タムシバ** 3〜4月上旬、岩石山に春を告げる花。コブシに似ていますが花の基部に緑の葉が付く。葉はコブシより細長く、葉は白みを帯びています。
- アヲリンドウ** 4〜5月、山頂近くの本丸跡に花畑のように咲く。高さ5〜10cmの青紫色の小さな花。目の前の緑の葉に咲き、海の日や曇りの日には閉じたままです。
- コバノミツバツツジ** 4月に咲く岩石山の名花。高さ1.5〜3mの灌木です。花は黄色。肉質の葉の裏面は赤い。先に三つ葉が咲きますが葉が花に変わると見えます。
- ヤマツツジ** 高さ1m程度の半灌木。岩石山には多くあり、4月〜6月の間、ずれながら咲いて見えます。花は赤い。葉は赤い。葉は赤い。葉は赤い。
- シリアカガシ** どんぐりの葉が丸んでいるので「丸葉」とも呼ばれます。岩石山を特徴づける常緑中実木。9〜10月に花が咲き、葉は白く見えます。葉は食べることができます。
- ヤマイバラ** 5月、大きな花序に直径3〜5cmの白い花をつけ、バラ特有の芳香を漂わせます。葉は緑色の葉に生じて咲き、林道などの高い位置から見えます。
- ナツハゼ** 山頂部の岩壁などに生え、秋の紅葉が美しい常緑木です。標高400mの山にあるのは珍しい存在。5月に赤い小さなつぼみ状の花を咲かせます。
- ツブラジイ** 県内のシイにはスダジイとツブラジイがありますが岩石山のシイは、ほとんどがツブラジイで、どんぐりの実が丸い形をしています。花期は4〜5月。
- オカトラノオ** 葉の節などに生える多年草。6〜7月、葉の先に白い小花が原状の花穂となり、しなやかに曲がったその形状が、鹿の角のように見えたのでしようか。
- クマミズキ** 高さ20mに達する常緑木で6月に白い花。秋には小さな赤い実をつけ、落葉後の木は真っ赤に染まります。分枝上向き(西側の谷に常在して見られます)。
- ウラボシ** 葉の裏に白粉が生え白く見えるので白粉の木。八重割付近に多い常緑木で、花は5月上旬。幹の表面に皮目(むく)一透れ(むく)があります。
- キンリョウソウ** 4〜8月、カシヤシイなどの樹影の下で見つかる真っ白で特異的な植物。光合成せず、腐植土から栄養を得る寄生(腐生)植物です。
- シタキソウ** 林下で生える常緑のつる性植物。約100cmに達した2つの葉の裏は、初冬に割れて白い毛を付けた種子が舞い落ちる。(絶滅危惧種II)

岩石城下町の歴史遺産と添田公園

岩石山・岩石城の麓に形成された城下町。小倉と天領日田を結ぶ日田道に沿って、白壁が風情を醸す文化財・中島家住宅や中村家住宅など、歴史を感じさせる建物が並んでいます。また、石の名所と名高い添田公園には人浴場などもあります。山登りの後は歴史の街を散策してみてください。

中島家住宅 藩政に開かれた真っ白な漆喰壁が、古い街道に存在を告げる中島家住宅。裏入りの町屋が多い中、通りに面した平入りの主屋は銀色の瓦葺きでひときわ大きく見えます。中島家は江戸時代に頼川(はらうら)の製造で財を成し、名学塾方を許された日田で、明治以後は洋館を建てたといわれています。屋敷の奥には岩石山を眺望した広大な庭園があり、往時の繁栄を物語る。MAP ①

中村家住宅 中村家は古くから酒造業を営んでいましたが、明治期に製糖業に進出。平成10年に創業するまで多くの人に愛されてきました。現在の建物は江戸初期のもので、重要に見える。3つの大きな漆喰壁が特徴的です。MAP ①

法光寺 法光寺は1474年に門司で創立し、慶長年間(1600〜1650)に岩石城大手門跡に寺を再興されました。岩石城の大手門を模したという山門は、頼川家の家紋(九曜)が掲げられています。山門の奥に寛永6(1629)年に造られたものです。MAP ②

添田公園 県下でも有数の石の名所と名高い添田公園。春にはソメイシロをはじめとする約1600本の桜が咲き、気候地帯一の桜の名所となっています。秋は岩石山全体の紅葉も色あざやか。四季を通じて色鮮やかな表情を見せてくれます。また公園内には「添田美術館」や「添田公園」があり、いずれも岩石城をイメージした建物がユニーク。そえどジョイには歴史大浴場がありますので、山登りの後は汗を流してリフレッシュできます。MAP ②

添田町 まちづくり課 〒824-0991 福岡県添田町大字添田2151 TEL 0947-82-1231(代表) FAX 0947-82-2889 <http://www.town.sendo.fukuoka.jp/>

岩石山に生きる希少な植物たち

福岡県レッドデータブックには、福岡県に生息する生き物のうち、絶滅したり、絶滅しそうな約1000種類の動植物が記載されています。岩石山の登山道や林道には、こうした絶滅危惧種を含む多くの植物が育っており、いまだ手つかずの自然が残っています。

- マツグミ** 幹葉の裏面に生ずる低木で珍しい多年生の植物です。添田神社のツツジや添田公園のツツジの樹に付いています。(絶滅危惧種II)
- ウドカズラ** 大きなつる性植物。花は小さく筒状で7月に咲きます。絶滅危惧種ですが岩石山には2箇所が生息しています。(絶滅危惧種II)
- ヒノキシゲ** 県内でも稀なシダ植物。五片がキノコのように切り込んでいて、先端は伸びて地面に付く子葉ができます。(絶滅危惧種II)
- ワサビ** 渓流沿いや落葉林内の湿潤地に生ずる多年草です。美しいハート型の葉。3〜4月には白い花が咲きます。(絶滅危惧種II)
- マメツクラン** 糸状の穂が上を這い、小さく肉質の鈴状の葉が特徴です。5〜6月に小さく黄色い花を咲かせます。(絶滅危惧種II)
- キンラン** 明るい林に生ずるラン。高さ20〜40cmで、5月に黄色い花を数輪つけます。自花のランも希少種です。(絶滅危惧種II)
- シタキソウ** 林下で生える常緑のつる性植物。約100cmに達した2つの葉の裏は、初冬に割れて白い毛を付けた種子が舞い落ちる。(絶滅危惧種II)

岩石山の自然は皆のもの
 岩石山は自然豊かな山です。これまで訪れた人々の足音で、希少な植物もたくさん減ってきました。そうした植物たちを今後も絶やさないために、植物の採取や林の中への立ち入りはひかえましょう。